



常陸太田アグリ通信

平成30年10月1日
県北農林事務所経営・普及部門(常陸太田地域農業改良普及センター)

JA常陸折笠ぶどう部会品種検討会を開催

8月30日(木), JA常陸折笠ぶどう部会(部会員6名)による品種検討会が日立市役所にて開催され, 29品種49房の果実が出品されました。

検討会では, 各生産者が1房ずつ栽培の工夫や品種特性等について説明し, 果実の仕上がりを確認しました。検討会後は, 来庁者や市役所職員等に振る舞われ, 試食した感想や要望など, 生産者と消費者の意見交換の場となりました。

部会では, ロゴマークやパンフレットの作成, タイへの輸出などブランド化にも積極的に取り組んでいます。

折笠地区には5軒の観光農園があり, 9月1日からオープンし大都部会長からは「今年はやや小粒だが糖度が高く良いものできた」とお話がありました。



平成30年度第2回常陸太田市耕畜連携会議を開催

9月7日(金)常陸太田市里美支所大会議室において, 「平成30年度第2回常陸太田市耕畜連携会議」を開催しました。会議では稲WCSの生産を受託している(株)JA常陸アグリサポートの部長をはじめ, 利用者側として常陸太田市飼料稲利用組合の役員その他, 関係機関の担当者が出席し, WCS用稲収穫時の確認事項や収穫・調製体制などについて協議しました。

今年度は天候にも恵まれ, 5月下旬に田植えを行ったWCS用稲については10月11日から10月19日頃に刈取り適期である黄熟期を迎える予想となりました。

今年は田植え時期がほぼ同じで, 品種が「たちすずか」のみであるため, 収穫適期が集中し, 一部ほ場では刈取り適期を若干過ぎてしまう可能性も指摘されました。その他WCS利用についても活発な意見交換が行われ関係者にとって大変有意義な会議となりました。





水稲栽培技術現地検討会を開催

7月26日(木)、主食用米の高品質生産と飼料用米の収量性確保による農業所得の向上を目的とした現地検討会を開催し、管内の水稲生産者および市、農協、県関係者45名が参加しました。

午前中は、高萩市内で①県オリジナル品種「ふくまる」の高品質栽培技術の検討と、②飼料用米での茨城農研式流し込み施肥技術の実演を行い、午後は、北茨城市で③飼料用米知事特認品種「月の光」の多収栽培技術と、④「コシヒカリ」の良食味米生産技術について検討しました。

検討会では、経営・普及部門より取組内容を行い、農業総合センターの専門技術指導員から今年の水稲生育状況や技術の内容、産地振興課より水田農業に関する最新の情勢を情報提供してもらいました。

暑い中、長時間にわたる検討会でしたが、出席した生産者からは検討ほ場の内容だけでなく今後の栽培管理や米の販売など様々な質問が出されるなど有意義な検討会となりました。



花き栽培講習会を開催

7月26日(木)に常陸太田市内直売所向け花き生産者15名が出席し、現地ほ場で今年度第2回目となる栽培講習会を開催しました。普及センターからは①旧盆向け切り花の収穫と鮮度保持②ストックの長期出荷栽培③現地ほ場にある切り花類の活用方法について説明しました。

特に、旧盆出荷に向けては、コギクを事例に切前の目安や収穫時間、収穫用刃物の取り扱い、調整・選別及び水あげのポイントや、買ってもらえる切り花にする調整方法や束づくりなどを中心に指導しました。

また、ストックについては、3年前から春彼岸出荷の作型で12名が栽培に取り組んでいますが、播種時期拡大により年内から春彼岸まで長期出荷を推進したところ、4名が新たに取組むこととなりました。

その他、コギクのアレンジ素材として、シンテッポウユリなどを用い、今ある素材と組み合わせることで、売れる花束となることを説明したところ、「使い方次第で活かせるものがたくさんあると分かった」などの感想が聞かれました。

